

視教だより

第 81 号

平成 31 年 3 月 1 日

下伊那視聴覚教育協会

まえがき

下伊那視聴覚教育協会 会長 川 手 浩 司

下伊那視聴覚教育協会としての活動を全て終え、このように「視教便り 第81号」を発行できますこと、関係の全ての皆様に感謝申し上げます。

本年度より、新学習指導要領の移行措置期間が始まりました。小学校では2020年度、中学校では2021年度の完全実施に向けて取り組みが進められていることと思います。そのような中、本年度は11月22日(木)に、下伊那視聴覚・情報教育研究大会を売木小・中学校のご協力をいただいで開催しました。

売木小・中学校では研究テーマを「思考力・判断力・表現力を伸ばす授業の実践」と据え、小学校では売木モジュールの授業を、中学校では、国語の授業を提供していただきました。

売木モジュールの授業では、テレビ画面に提示された四字熟語をテンポ良く音読したり、画面に提示された立体図の通りに選んだピースを組み合わせて立体を作成したりと、スピードを意識し、一生懸命、テンポ良く、元気に、集中して学習に取り組んでいる子どもたちに出会うことができました。「学ぶ意欲」「思考力・表現力」「学習習慣」といった「学力の基盤」をつけたいと考えて売木モジュールの学習を積み重ねていくことが、自己肯定感の高まりにつながっていたと思います。ICT機器をフラッシュカードのように使い、テンポ良く学習を進めていく姿に、「どの学校でもこの方法を取り入れれば、学力の基盤の定着を図れるのではないか」と感じました。

中学校国語の授業では、職場体験でお世話になる事業所の方へ自己紹介をするために制作したプレゼンを発表し合い、アドバイスし合う授業を提供していただきました。それぞれのプレゼンに対するアドバイスを表計算ソフトに入力し、情報共有しながら学習を進めていました。生徒4人の授業であり、「付箋を使って…」とも考えられたようですが、「せっかくの機会なので…」と、コンピュータを使ってそれぞれの考えを共有しようと仕組んでくれました。「授業で何をしたいのか」を考えてのICT機器活用であり、大変参考になりました。

近年、情報・視聴覚機器の発展は著しく、今後も数年のうちに新しいものがどんどん出てくるでしょう。「新しい機器がないからできない」ではなく、「授業で何をしたいのか」を明確にして今ある機器を有効利用していくことが、「授業改善の一步である」と感じています。こういった取り組みを積み重ねていくことで、下伊那の各学校の情報・視聴覚教育が更に発展していくことを期待しています。

下伊那視聴覚教育協会では、ICT機器の有効活用を中心とした基礎技術講習会を開催しております。また、各市町村からいただいている負担金をもとに、毎年DVD教材を更新・購入して下伊那教育会館別館にある視聴覚ライブラリーで貸出しをしています。下伊那教育会のホームページからそれらの教材を閲覧することができますし開館日時も確認できますので、是非ご活用ください。

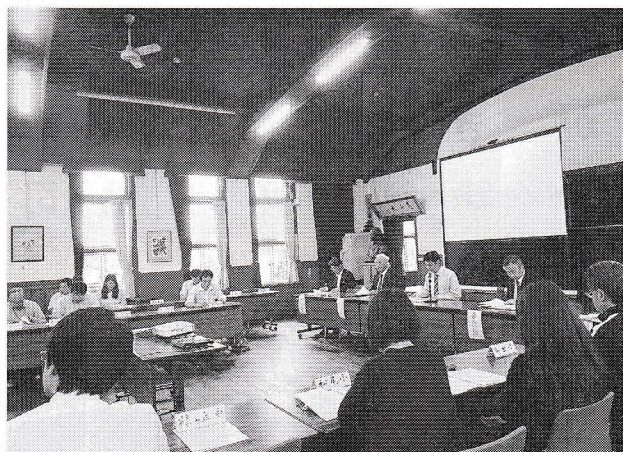
ドローンによる空撮が簡単にできるようになったり、指定した時間に荷物を配達するようになるなどの話があったり、飯田市では、自動運転で走る車の中でVRやARを体験する実証実験を11月初旬に実施したりと、技術の進歩には目を見張るものがあります。

しかし、人工知能がいかに進化しようとも、それが行っているのは与えられた目的の中での処理です。一方で人間は、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかという目的を自ら考え出すことができます。そして、その目的に応じて必要な情報を見だし、情報を基に深く理解して自分の考えをまとめたり、表現を工夫したりできるという強みを持っています。そういった意味で、情報・視聴覚教育の果たすべき役割は更に大きくなってきています。

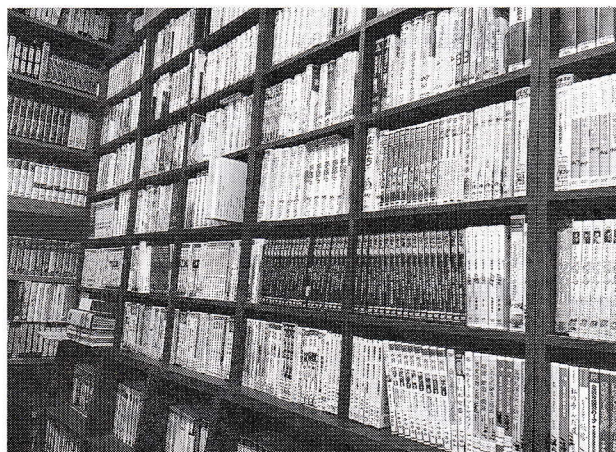
目 次

まえがき	1
第61回 下伊那視聴覚・情報研究大会	3
第50回 長野県視覚・放送・情報教育研究大会 中野・下高井大会	12
第29回 視聴覚基礎実技講習会	13
ライブラリーの充実とホームページの利用	15
あとがき	16
平成30年度 下伊那視聴覚教育協会組織	17

視聴覚教育協会の一コマ



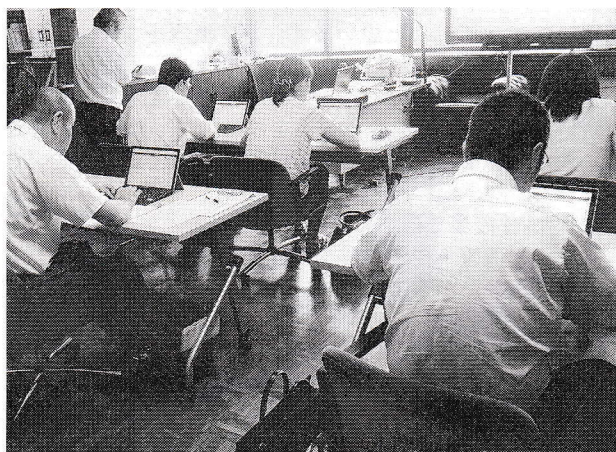
定期総会の様子



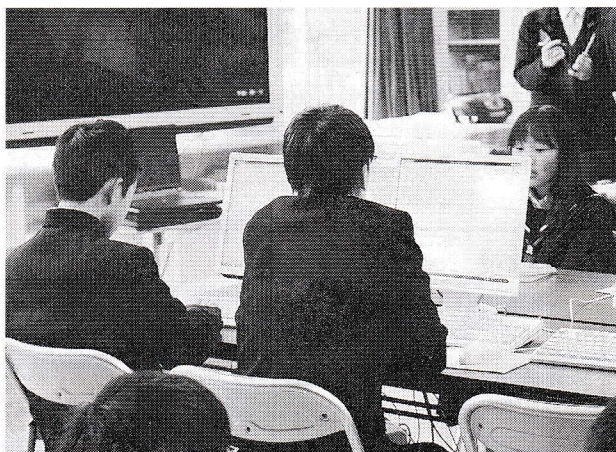
充実してきたライブラリーの棚



基礎実技講習会



売木小学校授業風景（モジュール学習）



売木小学校授業風景（国語）

一 第61回 下伊那視聴覚・情報教育研究大会

第61回下伊那視聴覚・情報教育研究大会が、平成30年11月22日(木)に、売木村立売木小中学校において開催されました。飯田下伊那地区の小中学校から、多くの方の参加があり、盛大に開催することができました。

大会 主 題

『広い視野をもち、新しい文化を築く心豊かな人間の育成をめざして』
～教育メディアの効果的活用を通して～

売木小中学校 研究テーマ

『思考力・判断力・表現力を伸ばす授業の実践』

【うるぎモジュール】

(一) 公開授業と研究会

1～4年の学習

5・6年の学習

授業者 松沢 徹 教諭

授業者 市瀬 恵子 教諭

うるぎモジュールについて 売木村立売木小・中学校



モジュール学習って何？

モジュールという言葉は「まとまり」や「組み合わせができる部分」という意味で、それを学習に当てはめたものがモジュール学習です。うるぎモジュールでは、四字熟語の音読、計算問題、思考力を高める問題などを15分間の中で組み合わせて進めます。活動がテンポよく変わるので、メリハリがあり、集中できることがこの学習の特徴です。



どんな力がつくの？

次期学習指導要領では次の資質・能力の育成を目指します。

**生きて働く知識
技能の習得** **学びに向かう力** **思考力・判断力・
表現力等の育成**

売木小中学校では、うるぎモジュール学習により学力の基盤を身につけ、日常の授業で学力をつけることにつなげたいと考えています。



日常の授業

知識・技能・思考力・国語力・計算力・表現力・判断力・創造力
コミュニケーション力・空間認知力・集中力・積極性・協調性・・・

うるぎモジュール 「学力の基盤をつくる」

学ぶ意欲

- ・学んで楽しい
- ・できた、分かった喜び
- ・達成感
- ・自分を表現する喜び

思考力・表現力

- ・考える力
- ・応用する力

学習習慣

- ・集中できる
- ・積極的に参加
- ・姿勢良く
- ・聞く、話す、書く

他と比べず、自分との戦い

日々の蓄積



うるぎモジュールの具体的な目標は？

【具体的な目標】

- | | |
|---------|---|
| 学ぶ意欲 | ・笑顔で進んで取り組める。・大きな声が出せる。・積極的アクション |
| 思考力・表現力 | ・条件にそって考えることができる。
・自分なりの考えを持ち、みんなにわかるように発表できる。 |
| 学習習慣 | ・集中して取り組むことができる。
・正しい姿勢。 |





どんな教材を使うの？



【声出し time で使う教材】

四字熟語（全学年共通）・・・四字熟語を音読する教材。

たんぽぽ（全学年共通）・・・古典の音読を行う教材。

【考え time で使う教材】

パターンメーカー（全学年共通）・・・図形を組み合わせて一つの図形を作る教材。

キューブキューブ（全学年共通）・・・立体図形を組み合わせて、決まった図形にする教材。

【集中 time で使う教材】

サボテン（2学年で1つの教材）・・・計算ドリルを行う教材。

あさがお（2学年で1つの教材）・・・文章をなぞったり、書き写したりする教材。

*なお、これらの教材は、家庭学習では扱いません。



日程は？誰が担当するの？



小学校は毎日(月、金は業間休み前、火、水、木は朝)。中学校は火、水、木の朝。

小学校1～4年、小学校5・6年、中学生の3クラスに分かれて行います。それぞれ学習の指示を出す先生、サポートを行う先生が指導にあたります。役割は交代します。

全職員・全クラスでそろえる3ポイント

①スピード、テンポ、タイミング ②発散と集中 ③寝めることを大切に

以下のような組み合わせで15分間、4つの活動を組み合わせて行います。

小学校1～4年

	月	火	水	木	金
声だし time	四字熟語	四字熟語	四字熟語	たんぽぽ	たんぽぽ
考え time	キューブ×2	キューブ×2	キューブ×2	パターンメーカー	パターンメーカー
集中 time	サボテン	サボテン	サボテン	サボテン	サボテン
	あさがお	あさがお	あさがお	あさがお	あさがお

小学校5・6年

	月	火	水	木	金
声だし time	英語	四字熟語	四字熟語	たんぽぽ	英語
考え time	〃	キューブ×2	キューブ×2	パターンメーカー	〃
集中 time	〃	サボテン	サボテン	サボテン	〃
	〃	あさがお	あさがお	あさがお	〃

中学生

	月	火	水	木	金
声だし time		四字熟語	四字熟語	たんぽぽ	
考え time		キューブ×2	キューブ×2	パターンメーカー	
集中 time		サボテン	サボテン	サボテン	
		あさがお	あさがお	あさがお	

「小学校 1 ～ 4 年」うるぎモジュールプラン

メインティーチャー 松沢 徹 サブティーチャー 金田紫織 澤柳景 稲葉陽子

会場 学習室

1 年 5 名 2 年 4 名 3 年 3 名 4 年 3 名

活 動	ポイント	時間(分)
① 声だし time ・ 学習のきまり ・ 四字熟語	・ 「学習のきまり」と「四字熟語」の間に、姿勢を褒める。 ・ できるだけ早く、大きく声を出してくことを意識できるように、教師の口調も早くしてく。 ・ 間を作らない。	4 分
② 考え time ・ キューブキューブ	・ リズムと声の大きさを意識して声を出すように、教師も大きな声で号令をかける。良くない時は「もう一度」と声をかけてやりなおす。 ・ 全てのグループが完成することを待たない。児童の活動が止まる時間を最小限にする。 ・ 1 回のモジュールで 3 問を目安にする。	5 分
③ 考え time【ICT 活用】 ・ アルゴで よかった！ ・ あ、からはじまる	・ 画面を集中して見る意識をもたせる。 ・ リズミカルに進めて、「アタック」をコールするテンポをできるだけ下げない。考えている児童を待ちすぎない。 ・ 「あ、からはじまる」で座った児童から、次の用意を進めていく。待つ、という時間を減らすために、モジュールが始まる時に全てを準備しきれないような仕掛けを、あえて、少しだけ作っておく。	3 分
④ 集中 time ・ だんだんだんだん、 かいだん言葉	・ 「今日の！」「お題は！」でスタートする前に、姿勢、鉛筆の持ち方、準備のよさを基準にして数人を褒める。 ・ 全て完成した時のタイムを意識できるようにする。 ・ 完成したら花まるをもらって、机上の整とんを始めている子を取り上げて、片付けを促す。	2 分
⑤ 振り返り ・ 今日の大賞は！	・ 迷わずにリズムよく今日の大賞を伝える。15 分間、教師の迷うところは児童に見せない。 ・ 評価する点は「姿勢」or「声」と決めておく。少し変わったところを評価する際は、教師が本当にそう思った姿にして、奇をてらうようなポイントを評価しないよう心がける。	1 分

「小学校5・6年」うるぎモジュールプラン

メインティーチャー 市瀬 恵子

サブティーチャー 鈴木優大 伊藤雄希

会場 理科室

5年 6名・6年 8名

活 動	ポイント	時間(分)
① 声だし time 【ICT 活用】 ・学習のきまり ・腹式呼吸 ・四字熟語	・大きな声でテンポ良く、間をあけないことを心がけて声を出す。 ・姿勢や準備、声の大きさなどがよい児童をほめる。 ・10～25 個の単語をリズムカルに音読する。 ・よくできた時にはボーナスポイントを与える。	2 分
② 考え time 【ICT 活用】 ・キューブキューブ	・リズムよく、動作を大きくして元気に取り組みるように、合い言葉を言う。 ・最初は個人で、次に仲間と協力して考え合い、できたらグループ全員で「できた」を言うようにする。 ・よいグループにはボーナスポイントを出す。	3 分
③ 考え time 【ICT 活用】 ・熟語作り	・画面に漢字を表示し、それを使った熟語を一人ずつ答えていくようにする。 ・全体でのタイムを計ることで、記録に挑戦できるようにする。	2 分
④ 集中 time ・サボテン	・本時の個人目標を設定するよう促し、全員で合い言葉を言ってから取り組むようにする。 ・終了後、目標達成者を確認、みんなでたたえ合える場を設定する。	4 分
⑤ 集中 time ・あさがお	・テキパキサラサラ、ていねいに書くことを心がけるように声がけをする。 ・ST が机間指導をし、形等よくできた字に○印をつける。 ・MT は時間を伝える。	3 分30 秒
⑥ 振り返り ・花まる大賞	・よかった子、がんばっていた子やグループを花まる大賞として発表し、みんなでたたえ合えるようにする。	30 秒

(二) 参加者の声

- ・短い時間の中でリズム良く活動が行われていて、子どもたちも飽きずに取り組んでいたと思います。モジュールの学習としては時間と内容と学び方がぴったりと合っていたように思います。
- ・子どもたちが楽しそうに学んでいる姿が良かったです。一人ひとりが自信を持って声を出していたように思いました。グループでの助け合い、個人の頑張り、毎日行うことで育ったものがたくさん

あると思いました。

- ・先生の調子良いテンポと、子どもたちのテンポが、良い感じにマッチしており、それも、これまでの積み重ねであると感じました。15分という短い時間が、とても充実したものになっていて、かつ、楽しく学習できていて素晴らしいと思いました。「声を出す」という形もとても良かったです。
- ・このような活動ができるのは、日々の積み重ねと、子どもたちがお互いに認め合える関係性があるからかなと思いました。
- ・サブの先生方も、子どもたちの特性などからでしょうか、支援にさりげなく入ったりほめたり、連携がとれていて、これまでのご尽力が感じられました。
- ・脳が活性化する興味深い取り組みでした。子どもたち一人ひとりが集中して素早く活動に向かい、片付ける繰り返しは、生活の中で「がんばる」力を付けるのにも有効であると感じました。
- ・メリハリや元気がとてもあり、楽しんでいるように感じました。その一方で、先生の言葉や子どもの返答が機械的に感じました。
- ・「声を出す」「集中する」のメリハリがすごかったです。あのテンポ、スピード、テンション...すごいなあと圧倒されてしまいましたが、声を出せる児童たちが素晴らしいと感じました。中学生もあの感じでやっているのかなと興味がわきました。ぜひ中学生バージョンも見てみたかったです。
- ・2年前、だれも「自分の良いところ」について言葉にできなかった。そんな子どもたちに、自尊心、肯定感を持たせるために取り入れたモジュール。モジュールありきでなく、目的がしっかりしていた点が成功につながったのだと思います。とにかく元気でハキハキした子どもたちにびっくりしました。

(三) 成果と課題

成果

テンポを大切にしている「うるぎモジュール」の中にICTを取り入れたことは、学習をリズムよく進めることに有効であった。15分という限られた時間の中で、時間の面でも内容の面でもメリハリをつけることができた。活動の課題を大きな画面に映すことで、視覚的に児童全員が課題を共通理解し、協力して取り組むことにつながった。一人一人が笑顔で大きな声を出す姿は、「児童の自己肯定感を育てる」といううるぎモジュールの目的に合ったものになっていた。

課題

2つの課題の答え合わせをする場面で、同じ場所で同時に2つの答え合わせをした。今やらなければいけない活動を焦点化するためにICTを有効に用いることで、構成をよりシンプルにしていきたい。

「うるぎモジュール」は型がはっきりしているため、児童も失敗を恐れず大きな声で教師とやり取りできているが、メリハリや元気が目立つ分、両者のかかわりが機械的なものを感じる部分がある。その学習がどのような目的で行われるものかや、どのような支援がより効果的かを見極めたうえで、ICTをどのように活用していくのかを、今後も考えていく必要がある。

【中2 国語】

(一) 公開授業

授業者 熊市 真也 教諭

国語科指導案

- (1) 主眼 自分の伝えたいことが事業所の方に伝わる自己紹介になっているか考える場面で、項目立てや順序立ての工夫とその理由に着目して、友だちからアドバイスをもらって吟味したり、友だちの自己紹介を聞いたりすることを通して、自己紹介を自分の伝えたいことが伝わるように構成を工夫することができる。

(2) 展開

段階	学習活動	予想される生徒の反応	◇教師の指導・援助	評価	時間	備考
導入	1 前時を想起し、本時の見通しをもつ。	学習問題:自分の伝えたいことが伝わる自己紹介にするにはどうしたらよいだろうか	◇伝えたいことが伝わるように、どのような点を工夫するとよいか問い、全体に位置付ける。		5分	前時までにまとめた模造紙パソコン
	2 互いにアドバイスする。	ア 前の時間に友だちに発表して試したけど、うまく伝わらなかった。確認する必要がある。 イ 情報ごとに項目を立てて、項目立てた情報の順序を見直すとよさそうだ。	◇ア、イのような生徒の意見を受け、学習課題を設定する。		15分	ワークシート付箋
展開	3 アドバイスを吟味し、改善する。	ウ Aさんは、自分の人柄を紹介した後に将来の夢と合わせて希望した理由を述べている。だから、一番伝えたいのは仕事を希望する理由だと思う。 エ Bさんは、自分の人柄について説明する時間が長かった。自分の人柄をたくさん伝えたいんだろう。	◇発表を聞くポイントとして、①感じ取った工夫、②最も伝えなかった情報は何だったのか、を全体で確認し、ポイントについて聞き取ったことを付箋に書き、発表者に伝えるよう促す。 ◇自分の工夫とその理由を、発表した後に聞いていた生徒に伝えるよう促すことで、それが適切であったか話し合えるようにする。		15分	
	4 変更した理由と共に発表する。	オ 人柄より、この業種が将来の希望だということを伝えなかったのに伝わらなかった。だから、「伝えたいことの順序を最後に回すとよい」とアドバイスを生かして考えてみよう。 カ 「エピソードを入れると聞いている人も納得できる」というアドバイスも参考にして、項目を付け加えてみよう。	◇話し合いが落ち着いたところで、発表者へのアドバイスを付箋に書き込む時間を設ける。 ◇付箋に書かれたアドバイスを自分の発表に取り入れるかについて、その理由も書き出せる欄をワークシートに設けておき、工夫する理由を明確にして自己紹介を改善できるようにする。 ◇ワークシートへの書き込みが終わった生徒には、アドバイスを参考に、パソコンを使って自己紹介を修正するよう促す。		10分	
終末	5 本時を振り返る。	キ 順序を替えた方が強調され、自分の得意不得意を説明する項目にエピソードを入れた方がわかりやすくなったと思ったので変更しました。 ク 変更前よりも伝わったと言ってもらえた。自分の伝えたいことが伝えることができてよかった。 ケ 項目立てや順序立てを工夫することにより、伝わりやすい自己紹介になった。項目立てや順序立てが大切だとわかった。今後発表する時など構成を工夫していきたい。 コ スライドの準備はできたから、あとは当日に向けて練習したい。	◇ペアになり、変更した箇所とその理由を伝えてから発表するように伝える。 理由を明確にして、自分の伝えたいことが伝わる自己紹介の構成を工夫することができたか。(発言・ワークシート) ◇学習課題が達成できたかについて、振り返るように促す。 ◇このような生徒の意識を取り上げ、次時の見通しをもつ。		5分	

(二) 授業研究会より

- ・パソコンを使用することで、全体が可視化され、整理・分析がしやすくなった。
- ・見た瞬間に、その場で加筆修正ができる。
- ・アドバイスをもらう側も書く側も、観点を明確にして活動することができていた。
- ・情報の入れ替えや編集においては、とても効果的だったと思う。
- ・一般的なソフトを使っでの挑戦は良かった。
- ・タイピングの遅い生徒には、手で書いたものを写真に撮って送るという方法もある。
- ・書かれた文よりも写真や図の印象が強くなってしまい、なかなか文に着目しづらかった。
- ・ワークシートがすぐに印刷されて出てきた。学習の記録に有効だと感じた。
- ・同じ画面を見て意見を言い合う授業形態が取れば良かった。
- ・ICTをどこで、どのくらい使うかの見極めが難しいと感じた。
- ・入力にかかる時間がもどかしい。
- ・発言しづらいことや表現しにくいことも、文字化することで伝えられることがあるのかも知れないと感じた。
- ・全員の意見が一つの画面で見られた。
- ・少人数では、考えを広げるという点が難しいが、今回のICTは視野をひろげるという点で有効だったと感じる。
- ・スライドを観ながら、観点に沿ってプレゼンテーションを評価しアドバイスを考えるという点で有効だった。
- ・モニター越しで意見を交わし合うのはもったいないと感じた。
- ・簡単で分かりやすく使えるというのが活用していく上でとても大切だと感じた。
- ・教師側がICT機器を活用する場面が必要だと感じた。例えば、エクセルシートを大型テレビで共有したり、タブレットでリアルタイムで観るなど、生徒が書いたことを広める、深めるための活用ができれば良いと思った。
- ・打ち込まれたアドバイスを画面に映し、「こういう風に替えるとどうかな」「この言葉を増やしてみただけどどうだろう」と交流しながらできると、さらにプレゼンを伝わりやすくと感じた。

(三) 参加者の声

- ・自由に話せるという環境ですので、アドバイスをし合うという形式は適していると思った。広がりには制限されてしまうので、教師の言葉で深く広げることが大切だと思った。
- ・少人数の学級での温かさや良さを実感し感動した。自分のクラスでも取り入れていきたい。
- ・エクセルの機能を考えると、言葉だけでまとめるのに加えて、数字やグラフを用いると、視覚的に項目を満たせているかどうか分かりやすかったと思います。
- ・少人数ということで、ICTを使わなくても意見の共有や話し合いはできってしまうと思います。とすると、自分の思いや考えをどのように表現するかが重点になるかと思います。事業所の方をある程度想定するなど、相手を思う視点があるともっとよくなると思います。
- ・PCを使用することで、整理・分析がしやすく、アドバイスを書く側も、もらう側も、明確であっ

たのではないかと思います。また、履歴が残っており、次回にも生かせる点も良いと思います。

- ICT機器をうまく使うことで、少人数でも意見交換をしたり、いろいろな見方に触れたりできて良いと思います。
- 文字入力にも慣れており、友達の入力してくれるコメントを見ようと、発表者の生徒が何度もリロードをしていました。友達の評価を見たい、知りたいという気持ちの高まりが見られました。記入する内容の項目が、細分化されていましたが、記入時間を短くするため、1つのセルに全て書くという方法でも良かった方と感じました。
- 4人のお互いの顔が見える中で学習が進んでおり、互いに友達のアドバイスをしっかり受け止めている姿にとても温かな雰囲気を感じました。友のアドバイスを聴くという姿勢が育っているなあと感じました。
- ICT機器を使った方がよい場面や使わない方がよい場面など、使いどころをもっと考えた方がよい。
- すぐに相手の意見が見えるという点は、思いを共有するのに有効だったと感じます。また、すぐに操作して、使いこなせている姿もすごいなと感じました。一方で、少人数なので、顔を見て、直接伝える場面が合っても良かったのではないかと感じました。一長一短があると思うので、「果たしてこの場面にICT機器が必要なのか」を良く吟味して、取り入れていきたいと思っています。
- 一人ひとりの発表の時間がたっぷり取れていて、考察時間もあってよい。
- 意見交換がPCの画面を通して行われていたため、キーボードの打ち込みに時間がとられていても構わない。
- 今後高校等で大人数の中での発言ができるように、少人数学級である今、生の声での意見交換や大きな声の発言を大事にした方が良いと思う。
- 「同じ画面を見て、意見を言い合う」形がとれなかったか。例えば、1人の発表場面を動画でとって、本人も含めて良い点や改善点を出し合う。少人数だからこそ、全員参加型の話し合い学習になるのではないかな。
- 4人なら1人のプレゼンについて10分は機器が使える。5分プレゼンとしても、残り5分、何を（項目、順番、エピソード）どうする（増やす、減らす、変える）ともっと良いプレゼンになるかなについて全員で話し合うことがやはり良かったのではないかな。ICTをどこでどのくらい使うか難しいと感じました。
- 「構成の工夫」というと、順序や組み合わせ（まとまり）などを推敲していくことが必要となります。文字を書く→消す→また書くことに対し、子どもたちはかなり抵抗があると思います。修正や加筆は、今回のようにスライドとしてPC上で操作することで、簡単にできるので、その点についてはICT活用が有効であったと思います。
- 意見や考えの多様性という面では、少人数の学習に課題、難しさが多々あるかと思っています。しかし、今回の4人を見ていると、話せる子どもたちだなと感じました。ICTを有効に活用し、（取り入れずとも）4人と先生とで課題に対して、対話をしながらつきたい力に向けて、学習を進めていくことができるのではと感じました。そういった意味では、本時で友達同士の関わりが見られると、さらに良かったのではないかと思います。職場体験に向け、自分の思いを相手に伝える準備があり、彼らの活動がより主体的で充実したものになりそうだなと感じました。

(四) 成果と課題

成果

友だちのアドバイスをエクセルシートに書き込むことで、話し合う観点を焦点化することができた。また、プレゼンを聞いてその場で友達にアドバイスを送ったり、送ったアドバイスを加筆修正したりできるという点や、全員の意見を可視化するという点で、ICT活用はとても有効であった。少人数の学習では、それぞれの考えを広げることが難しいが、本時はエクセルシートへの書き込みが、生徒個人の考えを広げることに役立った。

また、本時ではアドバイスをもとにスライドを修正する時間を取れなかったが、本時までの学習や、次時の学習では、パワーポイントを用いたことで、より事業所の方に伝わる自己紹介を目指して情報を入れ替えたり、新しい項目を立てて加筆したりすることができた。

今回、一般的に普及しているパワーポイントやエクセルを使ったことは、生徒にとっても授業者にとっても負担が少なくなり、その分授業づくりに時間をかけることができた。

課題

ICTをどの場面で、どのように、どれくらい活用するのかを、深く考える必要がある。そのためには、ICTを授業に持ち込む目的を明確にもたなければならない。本時はすべてのアドバイスを、エクセルシートへの書き込みを通して行ったが、その結果、タイピングに多くの時間がかかってしまい、スライドを修正する時間や、生徒同士が会話をする場面も少なくなってしまった。もし今回の授業で、話し合いの核となる部分のみをエクセルシートに書き込み、それ以外は自由に討論し、付箋に書いてアドバイスを送りあう活動をしていたら、スライドを修正したり、生徒同士が話し合う姿がもっと増えていたと考えられる。また、エクセルシートで全体が可視化できていたので、電子黒板にエクセルシートを表示し、同じ画面を見ながら全体で共有することで、「このように変更するとどうだろう」「この言葉を変えたけどどう思うかな」といった生徒同士のやり取りが生まれる可能性がある。

国語科としてつきたい力と、それに見合ったICTの活用方法を、今後も研究していく必要がある。

二 第50回長野県視覚・放送・情報教育研究大会

第50回長野県視覚・放送・情報教育研究大会が、平成30年11月15日(木)、中野市民会館を全体会場、中野市内の小・中学校（4校）と山ノ内町内の小・中学校（2校）を公開授業、授業研究会場として開催されました。下伊那地域からも多数の方が参加し、活発な意見交換が行われました。

【大会主題】

『自ら考え、自ら学び、未来を切り拓く子どもの育成』
～ 豊かな心と確かな学びを育む教育メディアの活用 ～

【研究主題】

『教育メディアを効果的に活用し、一人ひとりの子どもに確かな学力をつけ、心豊かな人間性を育むことを目指す』

○参加者の声

松川町立松川中学校 山 浦 雅 史

私は、中野市中央公民館で行われた番組研究分科会（中学理科）に参加させていただきました。分科会は、各参加者の先生からNHK for Schoolをどう授業で活用したのかのレポート発表があり、それぞれについて意見を出し合うという内容でした。

それぞれの先生が映像資料を使った分野は「化学変化とイオン」、「生命の連続性」、「動物の分類」、「生物のからだのつくり」など、多岐にわたるものでした。しかし、使われている映像は短いものが多く、授業中の必要な場面でピンポイントに使うことが大切であることを改めて感じました。

教科書にある写真だけではなく、動画で観ることで生徒たちがイメージしやすく、理解も進むという意見が多く、実際にその場で多くの番組を視聴しました。大人の立場から観てもアメーバが実際に動く様子や水が凍る様子などを動画で見ると楽しく感じ、より興味が持てるものでした。

また、実験でやってはいけないことや失敗例などの動画があると、生徒たちになぜやってはいけないかをよりわかりやすく説明できるなどの意見も出されました。

私自身、理科は専門ではありませんでしたが、生徒たちの興味関心に沿った使い方などはとても勉強になりました。ICT機器は特別なものではなくてきているので、教材教具の一つとして当たり前に使われることがさらに広がっていくことを期待します。

三 第29回 情報・視聴覚基礎実技講習会

授業・校務におけるICT活用講座

講座① ICT機器を利用した授業作りについて学ぶ

講座② 教育会グループウェアを使いこなすために

期 日 8月3日(水)

場 所 喬木村立喬木中学校 会議室（講座①）・校長室（講座②）

参加者 29名

今年度の「情報・視聴覚基礎実技講習会」は喬木中学校を会場にして、「ICT機器を利用した授業を行うためのソフトウェアの活用について」、および、「校務を効率よく行なうための教育会グループウェアの利用について」の2講座の研修を、参加者の自己課題に合わせて行いました。

講座①「ICT機器を利用した授業作りについて学ぶ」

喬木村ICT支援員の長坂亮介先生を講師に、新しいバージョンが公開されたスタディノート10を効果的に利用できる場面を考えたり、スタディノート10の機能を活用した自己紹介活動の体験をしたりしました。また、授業で利用する教材を、「step 1：見せる」「step 2：書く・かくす・動かす」「step 3：つくる」という、3つのポイントで考える演習を行いました。その際にデジタル教科書を活用することで、より効果的にICT機器利用ができること、児童生徒にとってより分かりやすく魅力的な教材を提供できること、そしてより安価に教材を作成できることを学ぶことができました。これからさらに学校へ

の導入が進むICT機器を、授業のどの場面で・どのような形で使うことができるか、実際にタブレットPCを使いながら体験し、学ぶことができました。

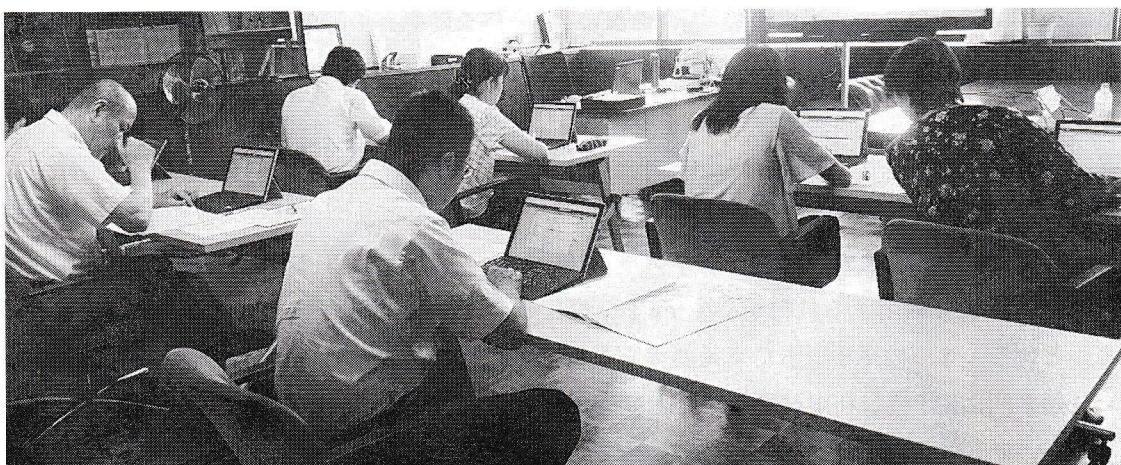
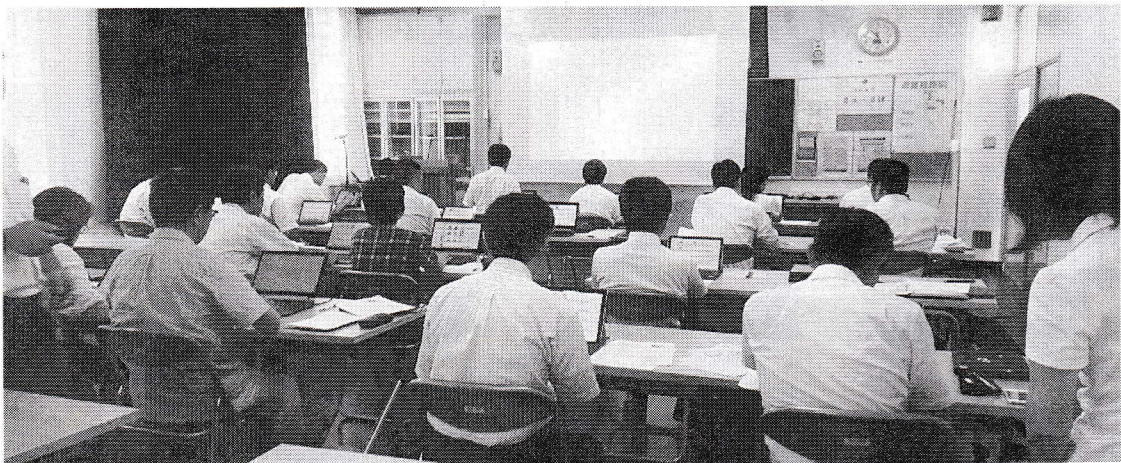
講座②「教育会グループウェアを使いこなすために」

グループウェアの基本的な使い方はもちろん、文書管理やアンケート機能の活用など、知っておくと便利な機能の使い方を学びました。下伊那に初めて赴任された先生方にも参加していただき、校務や教育会の仕事を短時間で効率よく進めるためのグループウェアの活用について学ぶことができました。

講座①の参加者からは、「児童生徒が楽しんで学習に向かえるように、学校でもICT環境を整えられるとよいと感じた」「デジタル教材を使った新しい授業の方法を学ぶことができた」「2学期に向けて、ICT機器を活用した授業を行ってみようという意欲がわいた」との感想が、講座②の参加者からは「普段使用しているグループウェアの、さらに便利な機能が知れた」「実際に操作してみてやり方が分かった」「資料もわかりやすく、これからグループウェアを使う時のために資料を大事に保管します」との感想が寄せられました。

授業でも校務でも、ますますICT機器を使う機会が増えていくことは間違いありません。今後も情報視聴覚委員会では、先生方のニーズにあった講習会を計画していきたいと考えています。

(豊丘南小学校 田中 崇)



四 ライブラリーの充実とホームページの利用

(一) ライブラリー ビデオソフトの購入

番号	題 名	教科等	時間	対 象 学 年
1874	中学生の進路学習シリーズ 1 年生編	進路	24分	中
1875	中学生の進路学習シリーズ 2 年生編	進路	24分	中
1876	中学生の進路学習シリーズ 3 年生編	進路	24分	中
1877	いのちと死の授業①難病と闘って気づいたこと	特活	30分	小高・中
1878	いのちと死の授業②殺処分から救われ人を助ける犬に	特活	23分	小高・中
1879	歯を大切に小学校 1 年奥歯のみがき方	保健	20分	小低
1880	歯を大切に小学校 2 年前歯のみがき方	保健	20分	小低
1881	歯を大切に小学校中学年	保健	26分	小中
1882	歯を大切に小学校高学年	保健	29分	小高
1883	巧妙化する詐欺手口に備える	特活	21分	小中高・中
1884	ことばの暴力～心を傷つけたひと言～	人権	20分	小全
1885	友だちの声が聴こえる？～本当の思いやり～	人権	24分	小全
1886	雅楽	音楽	20分	小高・中
1887	小学校生活科DVD①どうぶつとなかよくなる	生活	16分	小低
1888	まんが日本史①～古代の日本～	社会	24分	小全
1889	まんが日本史②～飛鳥と奈良～	社会	24分	小全
1890	まんが日本史③～平安前期～	社会	24分	小全
1891	岸本誠の目からウロコのLGBT基礎講座	性教育	32分	中・一般
1892	小学校生活科DVD②がっこうにくるみち	生活	16分	小低
1893	小学校生活科DVD③生きものはっけん	生活	16分	小低
1894	障害のある子障害のない子	人権	18分	小高
1895	ひとりぼっちはいやだよ～みんなでなくそういじめ～	人権	20分	小高
1896	思いやりが命を救う～いじめゼロを願って～	人権	20分	中
1897	思春期の性知識シリーズ思春期のからだの変化と性的成熟	性教育	23分	中

(二) ホームページ

平成23年5月より、現在の公益社団法人下伊那教育会ホームページがスタートし、約7年半が経過しました。このホームページにアクセスした数は、今年1月までで、およそ86万2千件になりました。昨年度1月までがおおよそ73万4千件でしたので、この1年間だけでも13万件近い訪問があったことになります。

今年度は担当者が代わり、トップページを昨年度までの活動と今年度の活動に分けてまとめて見やすくなるような工夫を行いました。ホームページをぱっと見た時に、自分の関心のあるページを開くにはどこを更に開いていけばよいのか分かりやすくなればよいと考えながら、構成の工夫を行いました。更に見やすくなるように、トップページに写真を入れるなどの工夫を行い、自分の探したい場所に素早くアクセスできるようにしていきたいと考えているところです。

ホームページについてご意見がありましたら、下伊那視聴覚協会までご意見をいただければ今後の更新の参考にさせていただきます。今後も、更に多くの方に下伊那教育会、下伊那視聴覚協会（ライブラリー）への関心を持っていただけるように、魅力あるホームページづくりを目指していきたいと考えています。

あ と が き

下伊那視聴覚・情報教育研究大会は下伊那郡全体の発展を願いつつ地区ごとの輪番制で行っております。平成27年度は阿智村立阿智中学校・阿智第三小学校（西部）、平成28年度は松川町立松川中学校・松川中央小学校（北部）、第60回を迎えた昨年度は飯田市立三穂小学校・竜峡中学校（中部）で開催してきました。今年度の大会は、大会主題を『『広い視野を持ち、新しい文化を築く心豊かな人間の育成を目指して』～教育メディアの効果的な活用を通して～』とし、売木小・中学校を会場にして行われました。

売木小中学校では小学校の「うるぎモジュール」と言われる塾と連携したドリル学習と、中学校2年生の国語でプレゼンテーション作成を題材としてお互いにアドバイスしあいながら考えを深めていく授業を参加者全員に公開していただきました。

大会当日は、遠方にもかかわらず50名を超える先生方にご参加いただき、1～4年と、5・6年の2会場でテンポ良くメリハリがある進行の中、集中して学びつつ自分を表現している小学校児童の姿と、5名という少人数ながら全員が共有ファイルを通じて短時間で多様な意見を交換し合って考え合う中学生の姿を参観させて頂き、大会テーマに関連して多くの示唆を得ることができた有意義な研究会となりました。ご協力いただきました売木村教育委員会をはじめ、下伊那教育会、下伊那校長会、全校体制で研究に取り組んでいただきました売木小・中学校の先生方に深く感謝を申し上げます。さらに、研究会でご指導いただきました助言者の先生をはじめ、真摯にご討議くださいましたご参会の先生方に心よりお礼を申し上げます。

来年度は、松尾小学校・緑ヶ丘中学校を会場として、62回目となる大会が予定されております。下伊那の視聴覚教育および情報教育の更なる充実と発展を期するものであります。

夏に行われた基礎実技講習会では「授業におけるICT活用講座」と題して、喬木中学校のICT支援員である長坂先生を講師に迎えて、タブレットPCや電子黒板を授業の道具として使い、わかりやすい授業や協働的に学ぶ授業を構築するための実技講習を行いました。会場となった喬木中学校では、郡内でも早くから生徒一人一台のタブレットPCが整備されており、生徒も先生方も日常的にICTを道具として使っている学校です。その学校でのICT活用を牽引している長坂先生の講座は、実践的ですがすぐに自分の授業に生かせるものから、次世代の学びとして目指していけるものまで、どの参加者にも満足して頂ける内容でした。また、今年度は初の試みとして、情報・視聴覚委員会によるグループウェアの使い方講座を並行して開催したところ、各校でグループウェアを管理されている方を中心に9名の方が参加され、「校務に役立ち、ありがたい研修であった」との感想を頂くことができました。今後も可能な限り繰り返して開講していきたいと予定しています。来年度以降もより多くの方に参加して頂きたいと考えます。

下伊那視聴覚協会、情報・視聴覚委員会では、これら研究大会・基礎実技講座の運営やHPの運営などにより、下伊那の情報教育・視聴覚教育発展のためにどのように関わっていけばよいか、よりよい方法を研究・推進しております。関係各位の皆様方にはこれからもご支援ご鞭撻のほどよろしくお願いしたいと思います。

最後に、本委員会の活動をお支えいただきました皆様に、心より感謝申し上げます。

平成30年度 下伊那視聴覚教育協会組織

◇顧問 庄 田 秀 俊 下伊那教育会長（追手町小学校長）

◇会計監査委員 大 蔵 和 幸 下伊那教育会会計監査委員
宮 島 忍 下伊那教育会会計監査委員

◇協 会 長 川 手 浩 司 喬木中学校長

◇副 協 会 長 有 賀 大 遠山中学校教頭

◇総 務 小 木 曾 雄 亮 根羽中学校

◇研 究 藤 原 卓 也 泰阜中学校
熊 市 真 也 売木中学校
富 田 寛 下久堅小学校
鈴 木 勝 鼎中学校
立 花 聡 鼎小学校

◇番 組 研 究 藤 原 卓 也 泰阜中学校 理科
田 中 崇 豊丘南小学校 理科
富 田 寛 下久堅小学校 理科
鈴 木 勝 鼎中学校 道徳・特別活動・総合

◇ライブラリー ○山 浦 雅 史 松川中学校
富 田 寛 下久堅小学校
熊 市 真 也 売木中学校
立 花 聡 鼎小学校

◇ホームページ ○小 木 曾 雄 亮 根羽中学校
田 中 崇 豊丘南小学校
立 花 聡 鼎小学校

◇事 務 局 宮 澤 傳 二 協会ライブラリー